



KICK OFF 通信

目指せ「人財大国！」コミュニケーション能力の向上

◆コミュニケーション能力とは

自分の意見や考えを分かりやすく伝えたい、そんな場面って多いのではないのでしょうか。そこで求められるのが、「意思疎通能力」いわゆるコミュニケーション能力です。仮に言葉を使わないならば、相手の表情、目の動き、場の空気などを敏感に察知し、対処する必要もありますね。

思想家の内田樹先生によれば、コミュニケーション能力とは、コミュニケーションが不調に陥ったときに、そこから抜け出す力であると指摘しております。また、円滑なコミュニケーションが出来る環境を整える力、とも言っておられます。

いずれにしても、日常生活を送る上で不可欠な要素ですので、幼い頃からの能力向上を目指していかなければなりません。

◆コミュニケーションの

苦手な日本人

外国人から日本人を見た場合、「はっきりものを言わない」「何を考えているのか分かりにくい」、

こうした印象は付きまとうようです。国際会議でもおとなしい、日本人同士で固まっている、なんていう光景が目に見えられます。

ここで注視すべきは、言語や文化が異なる人たちの共通の基盤は、「論理」であるということ。今や世界は急速にグローバル化を果たしましたので、「法と契約の遵守」がベースとなります。したがって、日本人として「論理的思考」を磨くことで、海外とのコミュニケーションによる利害調整を図っていく必要性が生じます。

相手と向き合った際には、求めに応じ、結論から切り出し、それもユーモアを交えて、そんなスキルが求められましょう。これを、いかに私達の生活環境に溶け込ませるべきか、大いなるテーマと言えます。

◆日本の学校教育現場は今？

昨今、各学校現場でも、他人と接する時の態度や感情のコントロールなどを学び、コミュニケーション能力を高める授業が行われているようです。また、小学生が、

観光客のガイド役を務めたり、ゲームや演劇、お笑いなどを活用して、自らの表現力、自己PR力を高めつつ、豊かな人間関係を作っていくとする訓練が行われております。

さらに、学生間でもディベート(討論)が重要視されていますね。自分の考えをはっきり伝えることを習慣化する努力は、絶え間なく続いていくことでしょう。

◆これからの日本の教育

日本は、かつてから「和をもって貴しと為す」なる文化があり、「論理」にこだわれば「理屈っぽい」と疎んじられる風潮がありました。しかし、ムラ社会に従っていれば良かった時代は既に過去の遺産として、今や世界共通の「論理」で理解し合うことが求められます。

そして互いの主張の中で「共通の価値観を見出す」ことが出来たら、人間同士の絆は益々深まるのではないのでしょうか。また、歴史を知ることは「自分自身の思想哲学を持つ」ことに繋がりますので、この勉強も怠ってはいけません。



水みとまさし

【プロフィール】

昭和37年 7月28日生まれ
神奈川県立湘南高校・慶応義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に…

平成 4年 「税は政治なり」との思いで始めた税理士試験に合格
平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任

平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選
維新の党・税制調査会事務局長
総務委員会&沖縄・北方領土特別委員会 両理事

平成29年 国土交通委員会ならびに厚生労働委員会 委員
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長
第48回 衆議員選挙出馬を見送る

前衆議院議員 / 神奈川5区(戸塚・泉・瀬谷)